

ヒゲトロのセット釣り

チョーチン編・浅ダナ編

●軽いタイプの「ヒゲトロ」のバラケ

浅ダナ向けのブレンド

パウダーバイトヘラ200cc+バラケマッハ100cc+浅ダナー本100cc+水100cc+スーパーダンゴ100cc



●浅ダナ仕掛け図



基本セッティング

基本は、短ハリスで釣り込んでいく。スタートは8cm×16cmでアタリがあってもヒットしないときには下ハリスを2cm単位で詰めていく。ただし、下ハリスを12cmとしたときには、上ハリスも8cmから7cmに短くする。ハリのサイズは、上4号、下3号で、くわせエサが抜けやすいたときにはサイズアップをする。

オモリ

0.25厚の板オモリで1cm×1.5cm程度、若干沖めを攻めるときには魚の寄りの量も厚くなるのでもう少し浮力のあるウキを使用したほうが釣りやすい。

実寸大

くわせ



ここがポイント

アタリが少なくて釣れないとき

魚の活性が高い場所では、チョーチン用のブレンドと同じ重たいタイプを使用し、反応が弱いときには軽いタイプで刺激するのが、基本的考え方。つまり、アタリが弱いときには、浅ダナでもチョーチンでも軽いタイプを使用するが、それでも好反応にならないときには「鬼バラ」をバラバラ程度振りかけて若干のボンゾウを出す。



●釣り方のコツ

「短竿・短ハリスセッティングで釣る」

この釣りのポイントは、短竿で短ハリスのセッティングで釣り込むこと。特に浮き棧橋などでは有効で、棧橋の影に入っている魚が反応すると爆釣につながる、なおかつ魚のサイズも抜群によい。

バラケエサの特徴はダンゴエサに近く、タナに入ってもジワジワとバラける程度がよい。その粒子が魚を呼び込み、数cm下方に位置する「ヒゲトロ」を吸い込む図式となる。

トロ口自体が軽量で水に漂う性質があり、バラケエサの粒子の下にトロ口を定着させたいため、必然的にハリス段差は狭くなる。ある程度バラケエサに反応しかけている魚がターゲットとなるのでサイズもよくなる。

●重いタイプのヒゲトロのバラケ

チョーチン向けのブレンド

パウダーベイトヘラ400cc+スーパーダンゴ200cc+ペレ道150cc+水150cc

くわせ



●作り方 / 「パウダーベイトヘラ」400cc 「スーパーダンゴ」200cc 「ペレ道」150ccに水150ccを加える。全体を混ぜ合わせてから水を注いでそのまま放置する。ペレ道が入っているため、完全に水を吸収するまで放置する。←これがポイント、水を吸収する前にエサをいじりすぎないこと

●チョーチン仕掛け図

竿●8尺

ウキ●羽根寸8cm
パイブトツ

ミチイト●0.8号

ハリス●0.4号
(上6~8cm、
下12~15cm)

ハリ●
上4号、下3号

基本セッティング

チョーチンで釣るため、繊細なセッティングよりもトラブル回避で、道糸は0.8号を使用する。ハリスは上下0.4号でよく、ハリスの張りを強くしたいときには、下ハリスだけを0.5号にする工夫も効果がある。ハリスの長さは基本的に、上が6~8cmで、下は12~15cm位で決まると釣果も安定する。ウキは重さのあるバラケエサを支えるため、パイブトツ仕様が使しやすい。ハリはくわせエサの「ヒゲトロ」がハリ抜けしにくいタイプがよく、号数的には上が4号で下が3号位を基本にする。

エサの大きさ

実寸大



浅ダナ・チョーチンとも直径では1.3~1.5cm位。後はエサのサイズや加圧で微調整ようになる。注意することは、バラケエサを早く抜いての釣りではないため、エサのセンターにハリを入れ、最後まで芯持ちするようにすることがポイント。

オモリ

実寸大

0.25mm厚の板オモリで1.3×1.7cm程度を基本にする。基本的にはタナまでしっかりとエサを入れてから釣る釣法なので、軽量なタックルは必要ない。

ここがポイント

カラツンで釣れないとき

アタリがあって空振りが続くときには、くわせエサがついているかを確認する。特にトロロは魚の煽りで簡単に抜けてしまうので、そんなときには新しいトロロに交換しよう。トロロは時間の経過とともに繊維が弱くなる。一度に大量のトロロを水で戻さず少量ずつ使うようにする。セットの釣りなので、くわせエサがハリ抜けしていたのでは食いアタリにつながらない。釣れないとき、強いアタリが出ないときにはチェックしてみる。バラケエサにアタリ過ぎるときには、エサのボソッ感が強過ぎる。手水を打ちながらタッチを変えていく。

また、手の加え過ぎでネバリが強くなり、寄せ効果が弱くなっていることがある。なじんで一旦停止し、ジワジワとウキが返される程度のバラケ性があるかを確認、開きが弱いときには「スーパーD」を振りかける。



「わらび職人」を使用する。

くわせエサの「ヒゲトロ」は下バリに引つ掛けるが、その量は状況によって異なる。また、「ヒゲトロ」に重さをつけるときには、感嘆水や「わらび職人」を使用する。

エサの重さは、「ペレ道」全体のネバリ加減は「パウダーベイトヘラ」、タナでのジワジワとしたバラケ性は「スーパーダンゴ」が補う。